

授 業 科 目 名	自分を見つめ・広げ・伝える（文化領域Ⅰ）						
サ ブ タ イ ト ル	ヴァイオリンという楽器を通して音楽の世界を覗いてみよう						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	坂本真理					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到 達 目 標 と 学 習 の 成 果	到達目標 【授業の目標】ヴァイオリン属の楽器を中心にした視点から、時代と共に変化する楽器の求められ方、楽器の扱われ方などを知ること、音楽事象と歴史情勢とを関係づける思考力を広げる。また、楽器の制作者と演奏者のデリケートな関係を実際の音で知り、音の世界に対する感性を養う。 【授業構成】講義を中心に、音を聴いたり楽器の部品に触ったり、ちょっとしたエピソードを挟みながら、弦楽器に関する基本的な知識と世の中の事情などを楽しく学ぶ。その上で、名曲の楽しみ方を知り、楽曲と自分との関わりを実験を通して体験する。 【到達目標】 1）弦楽器に関する多面的な知識を持つことで関心領域を広げる 2）様々な事象変化と社会状況の関連性を考察する力をつける 3）豊かな人生を送るための感性を養う 4）音楽を通して実感した役割を、多方面に適用して考える思考の道を広げる						
	学習成果 1）弦楽器についての教養としての知識を得る。 2）弦楽器の大まかな歴史やエピソードとその時代背景を知る。 3）名曲に触れ、演奏者による違いや楽器の特長などの楽しみ方を知る。 4）音楽の持つ力を体験し、現実的なその役割や応用を実感する。						
ディプロマポリシーとの関連	楽器一つを取り上げても、様々な角度で見えてくる社会との関係を知ること、「文化・芸術的が持つ普遍性と固有性を感じ、多様な価値を受け止めることができ」かつ「事象を客観的かつ論理的に考察することができる」。また「幅広い視野と豊かな人格形成の基本を育成する」ための一世界として、作品を通して心で感じる感性を養い、生活の中に積極的に取り入れて、人生そのものを豊かにしていく助けとする。						
授 業 の 方 法	各回にテーマを定め、基本知識を学んだ後、テーマに因んだ音源を聴いたり、楽器に触るなど体感する。テーマによっては復習をレポートで行い、整理する助けとする。 音源を聴く、実際に何かに触れるなどの後、感想や考え方などを話し合うことを通して、感じ方・考え方の広がりを持つ						
テ キ ス ト 参 考 図 書	教科書は指定しない。						
評 価 の 要 点	基本的知識を理解し、整理できているか 学んで来た事柄への感想、考え方などを自分の言葉で表現できているか						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	レポート 20%、 期末テスト 80%						
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 上 の 助 言 な ど	音楽に関心を持てるようになりたい、という方も歓迎です。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	弦楽器の紹介、ヴァイオリンの鳴るしくみ 弦楽器の定義と種類、ヴァイオリン属の構造と鳴る原理を知る。	弦楽器の構造についての基本的知識	（復習）学んだことを図解して整理する
2回	いつ頃からあるの？楽器を作る工程って？ ヴァイオリン誕生と制作の歴史を学ぶ。また、楽器を作る工程を学び、そのデリケートさを知る。	ヴァイオリンの歴史的 基本知識	（復習）一般的な歴史時代と弦楽器誕生の関係を整理する
3回	ヴァイオリン銘器紹介・ヴィオラやチェロの銘器は？ どんな銘器があるのか、名制作者の人となりなどエピソードも交え、楽器にも性格があることを知る。	ヴァイオリン名器について、 の基本的知識と面白雑学知識	（復習）代表的な名器の 名前を覚える
4回	銘器っていくらくらい？・どんな人が持つてるの？ 銘器にまつわるエピソードを交え、楽器が歴史の中でどのような扱いを受けたのか、そのために価格がどう変遷したのかを学ぶ	楽器と歴史の関係を知る	（復習）弦楽器の価格に大きな影響を与えた歴史との関係を整理する
5回	演奏家にとつての楽器 「弘法筆を選ばず」は演奏家に当てはまるのか、演奏家の立場の書物から彼らの言い分を読んでみる。次に自分たちの身近に経験できる道具で道具次第で変わる経験をディスカッションしてみる。	物作りの職人と使う 人のこだわりを知る 一つの事柄を他に転 じて考える力	（復習）演奏家と楽器の 関係で、興味深かったこ とを書き出す
6回	弦楽器曲のはじまり・ヴィヴァルディについて 弦楽器曲が台頭するバロック音楽の時代についてざっと学び、その代表的作曲家の一人であるヴィヴァルディについてとその代表作「四季」の楽しみポイントの説明しながら鑑賞する	バロック音楽を鑑賞 する感性とミニ知識	（復習）ヴィヴァルディの 国と音楽の時代区分、鑑賞 した楽曲の名前と特徴を復習
7回	ヴァイオリン界の鬼オバガニーニ ヴァイオリンの昔からの奏法紹介と現代奏法へ転換させたバガニーニについて解説と実際の作品を聴く	弦楽器の奏法のため知識、 鑑賞ポイントの知識の一部	（復習）ヴァイオリンには どんな奏法があるのか整理 する
8回	4大ヴァイオリン協奏曲 ヴァイオリンの名協奏曲を紹介	名曲を愉しむ感性	（復習）4大協奏曲の作曲家 の名前を覚える
9回	3大チェロ協奏曲 チェロの魅力に触れてみよう	名曲を愉しむ感性	（復習）3大協奏曲の 作曲家名を覚える
10回	弦楽器の国チェコの作曲家：ドヴォルザークとスメタナ チェコの最も代表的な二人の弦楽器作品に触れる：弦楽四重奏曲、弦楽合奏曲など	名曲を愉しむ感性	（復習）チェコを代表する 作曲家名を覚える
11回	楽器を聴き比べてみよう！ 銘器と言われるものを録音で聴き比べて実際に感じてみる。 また、楽器鑑定についてエピソードを交えて	聴き分ける力、 音に対する感性	（次回までの課題）鑑の演奏で 鑑作のヴァイオリンの何と言う 作品の演奏が印象的だったか、 楽器製作者による違いの印象、 についてレポート、次回提出
12回	弦楽器を弾く人の効果と職業病 弦楽器を演奏することで得られる脳への良い影響と体への職業病などについて紹介 認知症への効果も見ると	楽器演奏することの脳、 身体への影響の知識	（次回までの課題）自分自身を 含め、楽器、知り合いなどが訴 えている職業病的な骨格的な症 状について、どのような症状で、 どうしてそうなるのか、でき だけ症状を出さない為はどうし たら良いか考えてくる
13回	音楽の性質による気分状態への影響 音楽の性質による違いが実際にどのように人の気分状態に影響するのかを実験し体感する。 それが、世の中ではどのように活用されているかディスカッションする	音楽鑑賞の心情への 影響の知識応用適用力	（次回までの課題）音楽の 種類と聴く時間帯、聴きたい 状況など自分はどうして いるかを自己観察してみる
14回	姿勢による脳への影響 演奏に限らず活動するための正しい姿勢とはどうか、また、姿勢によって脳へどのような影響の違いがあるのかを実験し、体感する。	活動時の良い身体状態 とその影響の知識	（次回までの課題）姿勢によ る違いをその他のすべてのこ とにおいて適用し、それぞれ が感じた効果をまとめておく
15回	まとめ 実験結果の整理および体感報告会。 今までの学びのまとめ、質問等	総合的に整理する力	（復習）授業の中で学ん だことを項目ごとに整理 し、把握する
試験	試験期間内 筆記試験		

授 業 科 目 名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サブタイトル	健康問題と社会を考える						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	4/5
担 当 教 員	松原みき子					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室に（3A03）に掲示						
到達目標と 学 習 の 成 果	到達目標 (1)目的 健康問題を通して社会の状況や変化を社会的な視点で捉える力を育成することを目的とします。 (2)授業構成と到達目標 ・構成 健康問題の取り組みや事例を考察し、社会の様々な仕組みについて考えを深めていきます。 ・到達目標 ①授業で提示される健康問題について自己の意見を論理的に話すことができる。 ②健康問題について情報を収集し、社会の仕組みについて考え、他者と話し合うことができる。 ③健康問題の背景や要因を探り、社会の状況との関連について根拠に基づいて自己の考えを発表することができる。 ④他者を受け入れ、他者から学び、自己の視野を広げることができる。						
	学習成果 (1)健康問題の背景や課題について、自己の意見を論理的にまとめて話すことができる。 (2)健康問題を取り巻く社会の仕組みや変化について調べ、他者とディスカッションできる。 (3)健康問題の背景や要因について文献等を調べ、根拠に基づいて自己の考えを発表することができる。 (4)グループワークや発表での他者の意見を受け入れ、社会の仕組みについて考えを深めることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	①ディプロマポリシーとの関係 広い見識を持ち、社会の状況や変化に伴う諸問題について社会的な視点で捉え、社会に貢献できるための力を育成します。 ②教養教育の目的との関係 健康問題を考えることで、社会とは何か、誰もが健康な生活を過ごす社会はいつにあるべきかを考える力を養います。						
授 業 の 方 法	①講義で提示された健康問題についてグループでディスカッションし、自己の意見をまとめる。 ②具体的な健康問題を取り上げ、社会の状況や変化との関係等についてまとめて発表する。 ③発表やディスカッション後の振り返りで、自己の考えを深める。 ④授業後に健康問題と社会的な視点についてレポートを提出をする。						
テキスト 参 考 図 書	参考書 命の格差は止められるか！ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業 イチロー カワチ 小学館 2013 7/31 参考書は各自で購入してください。 教材 聖徳大学moodleを利用する						
評 価 の 要 点	①各授業時の課題についてディスカッションや意見をまとめた退出プリントを評価する。 ②健康問題についての発表を評価する。 ③授業終了後の課題レポートについて評価する。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	①授業の提出プリント 30％ ②健康課題発表 50％ ③授業後の課題レポート 20％						
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 の 助 言 な ど	①各授業のディスカッションに積極的に参加し、課題について理解を深めてください。 ②課題を作成し発表することで、自己の知識や考え方の幅を広げてください。 ③moodleで授業の流れや課題を確認してください。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	オリエンテーション（シラバスを持参すること） 授業の目的、内容、方法、構成について説明する。	主体性 実行力 自己管理能力	予習）シラバスを読む。 復習）自分の興味があることを調べてメモを作っておく。
2回	健康の概念とその歴史の変遷 健康観について古代から現代の変遷について学ぶ。 自分たちが捉える健康観について話し合う。	主体性 課題発見力 コミュニケーション能力	予習）興味があることを他者に話せるようにしておく。 復習）話し合いの結果と自分の意見の違いを確認してまとめる。
3回	現代社会における健康問題とヘルスプロモーション 現代の健康問題とヘルスプロモーションについて学ぶ。 ヘルスプロモーションの取組について話し合う。	主体性 課題発見力 コミュニケーション能力	予習）興味があることを他者に話せるようにしておく。 復習）ヘルスプロモーションについて理解したことをまとめる。
4回	健康日本21の取組について 地域における健康づくりの施策や取組、成果と改善について考える。 健康日本21の目標と達成、課題から問題を把握する。	課題発見力 問題解決能力 コミュニケーション能力	予習）興味がある事例を調べてくる。 復習）実際の施策についてまとめる。
5回	健康問題と背景社会を探る① 「日本人はなぜ長寿なのか」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる。	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
6回	健康問題の背景を考探る② 「経済格差が不健康の源」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
7回	健康問題の背景を考探る③ 「格差は正のターニングポイント」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
8回	健康問題の背景を探る④ 「健康に欠かせない『人間関係』の話」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
9回	健康問題の背景を探る⑤ 「社会全体の健康はこうして守る」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
10回	健康問題の背景を探る⑥ 「果たして、人の行動は変わるのか」 ディスカッションをして課題を焦点化し、自分の意見をまとめる	問題発見力 情報収集力 コミュニケーション力 意思決定力	予習）「命の格差は止められるか」該当の章を読んで意見をまとめておく。 復習）自分の意見の根拠を説明できるようにまとめる。
11回	プレゼンテーション① 各自が選んだ事例について調べたことをまとめて発表する。 発表から学んだことや課題について自分の意見を述べるとともに振り返る。	プレゼンテーション力 傾聴力 批判的思考力	予習）発表内容についてmoodleで確認しておく。 復習）他者の発表について自分の学びと課題を述べることができるようにまとめる。
12回	プレゼンテーション② 各自が選んだ事例について調べたことをまとめて発表する。 発表から学んだことや課題について自分の意見を述べるとともに振り返る。	プレゼンテーション力 傾聴力 批判的思考力	予習）発表内容についてmoodleで確認しておく。 復習）他者の発表について自分の学びと課題を述べることができるようにまとめる。
13回	プレゼンテーション③ 各自が選んだ事例について調べたことをまとめて発表する。 発表から学んだことや課題について自分の意見を述べるとともに振り返る。	プレゼンテーション力 傾聴力 批判的思考力	予習）発表内容についてmoodleで確認しておく。 復習）他者の発表について自分の学びと課題を述べることができるようにまとめる。
14回	プレゼンテーション④ 各自が選んだ事例について調べたことをまとめて発表する。 発表から学んだことや課題について自分の意見を述べるとともに振り返る。	プレゼンテーション力 傾聴力 批判的思考力	予習）発表内容についてmoodleで確認しておく。 復習）他者の発表について自分の学びと課題を述べることができるようにまとめる。
15回	授業から学んだこと・まとめ これまでの授業の学びを振り返る。 健康問題と社会について、自己との関わりについて話し合う。 課題レポートの確認をする。	省察力 批判的思考力 創造的思考力	予習）これまでの発表内容を確認する。 復習）課題についてレポートを作成し提出する。
試験	①授業の提出プリント ②グループによる発表と発表資料 ③授業後の課題レポート 以上について総合的に評価する。		

授 業 科 目 名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サ ブ タ イ ト ル	子育てに関する諸問題について考える						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	寺田博行					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室(6310)に掲示します。						
到達目標と 学習の成果	到達目標 (1)授業の目的 DVDを視聴しながら子育てに関する諸問題について考えることを目的とします。 (2)授業の構成と到達目標 ①構成 DVDを視聴しながら子育てに関する諸問題について検討します。 ②到達目標 子育てに関する諸問題について理解できる。						
	学習成果 ①子育てに関する諸問題について「自ら学ぶ」姿勢を確立することができる。 ②子育てに関する諸問題について理解できる。 ③子育てに関する諸問題について自分の考えを述べることができる。						
ディプロマボリ シーとの関連	豊かな人間性をそなえた「実践力ある女性」として必要な視野を育みます。						
授 業 の 方 法	①テーマと関連するDVDを視聴し、知識の獲得を目指します。 ②視聴後にグループワーク等を行います。 ③グループワークの成果をクラス内で共有します。						
テ キ ス ト 参 考 図 書	教科書は指定しない。						
評 価 の 要 点	期末レポートによって評価する。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	期末レポート100%						
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 上 の 助 言 な ど	授業の内容、視聴するDVDについては変更する場合があります。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 授業の内容、方法について説明する。	授業科目の理解	ノートを見直しておくこと。
2回	子どもの可能性の伸ばし方 子どもの可能性をどう伸ばすかについて考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
3回	子どものしつけについて 「子どものしつけは何歳から」について考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
4回	イヤイヤ期について 子どものイヤイヤ期について考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
5回	心の育ちについて 子どもの心の育ちについて考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
6回	コミュニケーション能力はどう育つのか コミュニケーション能力はどう育つのかについて考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
7回	子どもの友達関係 子どもの友達関係について考える。	子ども理解	ノートを見直しておくこと。
8回	言葉の育て方について 子どもの言葉の育て方について考える	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
9回	子どもに伝わる言い換え術 子どもに伝わる言い換え術について考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
10回	子どものウソ 子どものウソについて考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
11回	子どものほめ方 子どものほめ方について考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
12回	子どものしかり方 子どものしかり方について考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
13回	子育てのヒヤリ・ハット 子育てのヒヤリ・ハットについて考える。	子ども理解 コミュニケーション力	ノートを見直しておくこと。
14回	非認知能力 非認知能力について考える。	子ども理解	ノートを見直しておくこと。
15回	まとめ これまでの内容について総復習をする。	子ども理解	ノートを見直しておくこと。
試験	レポート課題 指定した期間内にレポートを提出すること。		

授 業 科 目 名	自分を見つめ・広げ・伝える（文学領域）						
サブタイトル	児童文学で旅する世界						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	松村裕子					授業形態	講義
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と 学習の成果	到達目標 （１）目的 欧米諸国の児童文学や絵本等を通して、諸外国への興味を育て、理解を深める。 （２）授業構成と到達目標 ①作品を多読しながら、鑑賞の姿勢を学び、感想や調べたことを文章としてまとめる練習をすることが出来る。 ②作品の鑑賞から発展し、各国の文化について調べる方法を学ぶ。 ③聖徳教育（海外研修）と関連して、聖徳での学びを広げることが出来る。						
	学習成果 （１）欧米諸国の基礎的な児童文学作品や、昔話を鑑賞することができる。 （２）作品の鑑賞から発展し、感想をまとめたり、各国の文化について調べたりすることができる。 （３）短い翻訳や感想の文章化を体験し、日本語を磨くことができる。						
ディプロマポリ シーとの関連	①各国の文化の基礎にあたる「児童文化」を軸にして、豊かな人間性と国際的な視野を身につける。 ②文学や映像作品の視聴を経て、美的感覚を磨くとともに多面的な洞察力を育成する。						
授 業 の 方 法	各国の主要な児童文学作品を概観する。 講師による解説を経て、各自が作品に関連した問題を調べたり、感想をまとめたり、原文の翻訳に挑戦したりする。 最終的なレポートでは、児童文学作品の魅力や意義、問題点を文章にまとめる。						
テキスト 参考図 材書	教科書は指定しない。						
評 価 の 要 点	・ミニレポートに関して、 １、課題に沿った内容が、具体的な事例を伴って書かれている。 ２、用語が正しく用いられている。 ・期末レポートについて、 １、必要な調査がなされている。 ２、自分の考えを理論的に述べる努力がなされている。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	発表30%、各回のミニレポート（感想、まとめ、ミニ翻訳）30%、期末レポート40%						
履修上の注意 事項や学習上 の助言など	授業で取り上げる作品以外にも、楽しい作品がたくさんあります。ぜひ積極的に読んでみて下さい。 質問や活発な話し合いは歓迎しますが、私語は禁止します。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	オリエンテーション 授業の目的、進め方、評価方法、期末レポートについて理解をする。 ドイツの児童文学の概略の説明。発表の分担についての説明。	授業の内容を理解し自らの課題を発見することが出来る	予習：発表の用意
2回	ドイツの旅 グリム兄弟 グリム童話の鑑賞と感想。グリム兄弟についての講義。	ロマン派や民俗学の歴史、研究の現在を学ぶことが出来る。	復習：『グリム童話』を読む。
3回	ドイツの旅 ホフマン 「ねむりひめ」を中心に、ホフマンの絵本の鑑賞と解説。	絵本を分析的に読むことが出来る。	復習：任意の絵本を分析的に読む。
4回	ドイツの旅 ケストナー① ケストナーの生涯と作品についての講義。 ケストナーの各作品の魅力について発表を行う。	文化背景を理解しつつ、作品を鑑賞することが出来る。	予習：発表の準備。 復習：ケストナーの作品を読む。
5回	ドイツの旅 ケストナー② 映画「点子ちゃんとアントン」の視聴	映像を通して、ドイツの感性や文化を味わう。	復習：ケストナーの作品の魅力をミニレポートにまとめる。
6回	チェコの旅 チェコの絵本と人形劇、アニメーションの紹介。	文化背景を理解したうえで、作品を鑑賞することが出来る。	復習：任意の東欧アニメーションの視聴。
7回	ドイツ・チェコの旅のまとめ グループごとに、ドイツ・チェコについて興味をもち調べたことを発表する。	問題を発見し、調査をする能力。 調べたことを端的に表現する能力。	予習：発表の準備
8回	イギリスの旅 ファンタジー作品を中心に、イギリスの児童文学史を概観する。	イギリスの児童文学の歴史と伝統を理解することが出来る。	復習：任意のイギリス児童文学の鑑賞。
9回	イギリスの旅 ビアトリクス・ポター 原文で『ビーターラビットのぼうけん』を読む。鑑賞と解説。	部分訳を通して、イギリス文化に触れつつ日本語の表現力を磨くことが出来る。	復習：石井桃子訳の鑑賞
10回	イギリスの旅 オースティン イギリスの女性小説作家の紹介。映画「高慢と偏見」の一部視聴。	文学を通しかつてのイギリス階級社会での女性のあり方について学ぶ	復習：オースティンら、イギリス女性作家の作品の鑑賞。
11回	アメリカの旅 ワイルダー ワイルダーを中心に、アメリカの児童文学について概論を講義する。	児童文学を通して、開拓者精神や平等な社会への歩みを感じる。	復習：任意のアメリカ児童文学の鑑賞。
12回	カナダの旅 モンゴメリ カナダの歴史の概観と、モンゴメリ『赤毛のアン』についての講義。 映画「赤毛のアン」の一部視聴。	児童文学を通して、カナダの風土や歴史を感じる。	復習：任意のカナダ児童文学の鑑賞。
13回	北欧児童文学 トーベ・ヤンソン ヤンソンの業績と作品の背景についての講義。作品の鑑賞。	児童文学を通して北欧の文化を感じる。	復習：任意の北欧児童文学の鑑賞
14回	北欧児童文学 リンドグレーン リンドグレーンの業績についての講義。作品の鑑賞と、作中に出てくる遊び体験。	児童文学が社会に与えた影響について理解する。	復習：任意の北欧児童文学の鑑賞
15回	まとめ まとめとして、ドイツ、チェコ、イギリス、アメリカ、カナダ等の絵本と児童文学から、任意の作品紹介をおこなう。	文学作品を鑑賞し、その良さを自分の言葉で表現することが出来る。	予習：発表の準備 復習：紹介された本の鑑賞。
試験	評価の要点に基づき、レポートを課す。 ドイツ、チェコ、イギリス、アメリカ、カナダ等の児童文学から任意の1作品を選び、レポートを書く。 扱う作品は、15回目で紹介する本と同一でも構わないが、絵本は除くものとする。		

授 業 科 目 名	自然・社会・科学技術を考える（自然領域）						
サ ブ タ イ ト ル	日本の四季～自然・年中行事～						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	2/3
担 当 教 員	永井妙子					授業形態	講義
質問受付の方法	・研究室（3 9 0 7）に掲示しているコミュニケーションタイムを参照 ・授業中・授業後いつでも可						
到達目標と 学 習 の 成 果	到達目標 （１）授業の目的 自然とのかかわりの大切さや年中行事のもつ意味を再考し、それらを生活に取り込んでいくことの必要性を実感することができる。 （２）授業構成と到達目標 ①身近な自然に関心を持ち、調べたり探究したりし、生活とのつながりを理解することができる。 ②日本古来の年中行事の意味を知り、その内容やそこに込められた人々の思いを理解することができる。 学習成果 １．人は生活するうえで、自然とのかかわりが重要であることに気づくことができる。 ２．現代の（子どもの）生活の課題を知るとともに、人が生活するうえで、身近な自然とのかかわりや日本古来の年中行事の大切さを理解することができる。 ３．自己の経験を振り返り、自然や日本古来の年中行事を取り込んだ生活を試みることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	１、ディプロマポリシーとの関係 身近な自然や日本古来の年中行事との関連を理解することにより、日本人として、幅広い見識を有する「実践力のある女性」を育成する。 ２、教養科目の目的との関連 異文化をもつ人々との相互理解と共存性が求められている社会において、日本の自然や年中行事を理解し、自己の人間性の視野を広げ、協調・共存できる力を育む。						
授 業 の 方 法	講義科目ではあるが、テーマに関連した課題に対して、各自またはグループでの調べ学習、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ展開する。 １．テーマに関連した課題については、各自ノートにまとめ記録する。 ２．グループでの調べ学習では、必要に応じ図書館活用も可能とする。 ３．テーマごとに、プレゼンテーションを行い、他グループの発表内容を聞き、学びを共有できるようにする。						
テ キ ス ト 材 書 参 考 図	教科書は指定しない。						
評 価 の 要 点	１、授業の目標を理解し、主体的に取り組み、学びの内容をまとめることができる。 ２、グループ内で積極的に発言したり、協力したりすることができる。 ３、自然とのかかわりや年中行事に関心を持ち、学びを活かして、生活に取り込むことができる。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	１．期末試験（レポート） 50％ ２．授業中に課す課題への取り組み（発表、聞く態度、提出物） 50％						
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 の 助 言 な ど	１．日ごろから、身近な自然、日本古来の年中行事に目を向けましょう。 ２．調べ学習を積極的に行いましょう。積極的にに発言し、他者の意見や発表もしつかり聞きましょう。 ３．専用のファイルを用意し、資料や学びの記述を綴じましょう。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス １、学修の見通しをもち、授業のねらいや心構えを理解する。 ２、グループをつくる	授業内容の理解 コミュニケーション能力	予習 シラバス熟読 次回の準備
2回	四季の自然 １、グループで四季の自然について調べる ２、季節の特長を発表し合う	調べる力、まとめる力 コミュニケーション能力 協働・発表力・聞く力	前回の振り返り 次回の準備
3回	日本古来の年中行事 １、グループで日本古来の年中行事を調べる ２、どんな行事があるか発表し合う	調べる力まとめる力 コミュニケーション能力 協働・発表力・聞く力	前回の振り返り 次回の準備
4回	春～身近な自然とのかかわり～ １、春の植物や生き物を調べる ２、自然とのかかわる遊びを調べまとめる	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
5回	春～日本古来の年中行事～ １、春の行事を調べ理解する ２、先人の知恵を知る	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
6回	春～自然・年中行事～ ①プレゼンテーション １、春の自然の特長を知る ２、ひな祭り、端午の節句等の由来、意味、役割を知る ３、自然と人間の共生について理解する（行事の食べ物）	人間と自然との共生 についての理解 協働・発表力・聞く力	前回の振り返り 次回の準備
7回	夏～身近な自然とのかかわり～ １、夏の植物や生き物を調べる ２、自然とのかかわる遊びを調べまとめる	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
8回	夏～日本古来の年中行事～ １、夏の行事を調べ理解する ２、先人の知恵を知る	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
9回	夏～自然・年中行事～ ②プレゼンテーション １、夏の自然の特長を知る ２、七夕、お盆（盆踊り）夏祭りの等の由来、意味役割を知る ３、自然と人間の共生について理解する（行事の食べ物）	人間と自然の共生 についての理解 協働・発表力・聞く力	前回の振り返り 次回の準備
10回	秋～身近な自然とのかかわり～ １、秋の植物や生き物を調べる ２、自然とのかかわる遊びを調べまとめる	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
11回	秋～日本古来の年中行事～ １、秋の行事を調べ理解する ２、先人の知恵を知る	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
12回	秋～自然・年中行事～ ③プレゼンテーション １、秋の自然の特長を知る ２、十五夜、七五三、菊まつり等の由来、意味、役割を知る ３、自然と人間の共生について理解する。（行事の食べ物）	人間と自然の共生 についての理解 協働・発表力・聞く力	前回の振り返り 次回の準備
13回	冬～身近な自然とのかかわり～ １、冬の植物や生き物について調べる ２、自然とのかかわる遊びを調べまとめる	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
14回	冬～日本古来の年中行事～ １、冬の行事を調べ理解する ２、先人の知恵を知る	調べる力 コミュニケーション力 協働・協力 まとめる力	前回の振り返り 次回の準備
15回	冬～自然・年中行事～ ④プレゼンテーション １、冬の自然の特長を知る ２、正月、七草粥、鏡開き、節分等の由来、意味、役割を知る ３、自然と人間の共生について理解する（行事の食べ物）	人間と自然の共生 についての理解 協働・発表力・聞く力	<復習> 全授業の振り返り レポート作成の準備
試験	「評価の要点」「評価方法と採点の基準」に基づき、実施する。		

授 業 科 目 名	自然・社会・科学技術を考える（社会領域）						
サ ブ タ イ ト ル	自立する前に知っておきたい暮らしとお金の話						
授 業 区 分	教養科目	単 位 数	2 単位	開講時期	後期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	神田由紀					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室にオフィスアワーを掲示してあります。						
到 達 目 標 と 学 習 の 成 果	到達目標 <目標> 生涯を見通して自立した暮らしを安心して営むことができるよう、お金との関わりを多角的に捉え、実生活において生かせるようになることをねらいとする。 <到達目標> ①経済と生活との関連を理解し、ライフプラン、マネープラン等、生活に必要な収支計画の必要性を考えることができる。 ②問題商法、消費者金融、製品事故等に関する実態や法制度・行政のしくみ等について理解し、適切な行動を対応をとることができる。 ③循環型社会の形成に向け、消費者として環境に配慮した消費行動を実践できる。						
	学習成果 ①経済と生活との関連を理解し、ライフプラン、マネープラン等、収支計画のしくみを理解し、計画的に経済生活を実践することができる。 ②問題商法・消費者金融、製品事故等の原因や実態等について理解し、適切・的確な判断・行動をとることができる。 ③循環型社会の形成に向け、環境問題について理解し、環境に配慮した消費行動を主体的に実践することができる。 ④よりよい生活のための収支計画を工夫すると共にリスクへの備えも考えることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	生涯に渡り自立した生活を営むことができるよう、より満足度の高い消費ができるよう、消費者問題等に巻き込まれることの無いよう、経済生活の面から実践力を備えた女性の育成を目指す。 変動する現代社会において、ひとりの消費者としての的確な行動をとることができる女性の育成を目指す。						
授 業 の 方 法	①消費者問題や消費者金融、製品事故、環境問題等を身近な問題として関心を持つことができるよう、最新事例の紹介、シミュレーションやDVD視聴などを取り入れながら授業を行います。 ②ライフプランや収支計画を考え、自立して生活していく術を身につけられるよう演習も交えて授業を行います。 ③一人立ちする前にぜひ知っておいて欲しい様々な面から取り上げます。						
テ キ ス ト 材 料 参 考 図 書	教科書は指定しない。授業時に必要な資料を配布します。						
評 価 の 要 点	期末試験、課題、授業への取り組み等総合的に評価する。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	評価の要点に基づき期末試験40％、課題・レポート・授業への取り組み60％で評価します。						
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 の 助 言 な ど	・ 悪質商法や製品事故、環境問題など、生活に関わるこれらの問題の新聞記事やニュースに関心を持ちましょう。 ・ 限りある予算の中でできるだけ幸せに楽しくお金を使う工夫をすることができるように、大切に計画的に使うことができるようになっていきましょう。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 授業の概要について説明します。 自分にかかる費用はどのくらい振り返ります。 〔演習〕生まれてから卒業までかかる費用	自立への関心	復習（60分） 自分にかかる費用を振り返る
2回	経済のしくみと私たちの暮らし～世の中を巡るお金～ 家計のしくみ、税金の流れなどから、お金の流れと私たちの生活との関係について理解し、税金の使いみちを考えます。 〔演習〕税金の使い方の問題・課題検討	経済への関心	復習（60分） 各国の税金調査
3回	自立した生活に必要な費用 ～ライフプランとマネープラン～ 社会人として生活するために必要な費用、自分のライフプランに含めた費用、生涯資金など人生に必要な費用について考えます。 また、リスクに備える保険の仕組みについても理解します。 〔演習〕一人暮らしにかかる費用検討	問題解決能力	復習（60分） 一人暮らしの費用検討
4回	労働と賃金 労働に関する法律や最低賃金などを踏まえ、就労に関する制度等を理解すると共に、アルバイト就労の注意点について考えます。	就労に関する知識・理解	復習（60分）
5回	暮らしの中の契約 ～法律に守られた契約・解約～ 携帯電話、バイト、買い物など生活の中にあふれる身近な”契約”のしくみ、解約や取り消しが可能な契約について学びます。 〔DVD視聴〕賃貸住宅の契約について	契約についての理解	復習（60分） 身近な契約
6回	消費者信用① ～クレジットカードのしくみと支払方法～ 現金がなくても買い物ができる便利なクレジットカード。そのしくみと利用の仕方について考えます。 〔DVD視聴〕クレジットのしくみ	問題解決能力	復習（60分） クレジットの約款
7回	消費者信用② ～消費者金融のしくみ。なぜ、自己破産が増えるのか～ なぜ自己破産が増えているのか。その原因と防止策について考えます。 〔DVD視聴予定〕	問題解決能力	復習（60分） 消費者金融について
8回	消費者問題の現状 ～若者を狙う問題商法～ 悪質な問題商法が後を絶ちません。若者を狙う問題商法の手口や特徴について知り被害を未然に防ぐ方法を考える。〔DVD視聴〕	問題解決能力	復習（60分） 問題商法防止策
9回	製品事故の現状 ～事故事例と対応方法～ 私たちの身近な製品には使い方を誤れば大事故につながるものが沢山あります。その事例を映像をまじえて紹介します。	問題解決能力	復習（60分） 製品事故調査
10回	インターネットにおけるトラブル ～ネット活用のモラル～ インターネットは利用の仕方により便利に活用できたり、事故やトラブルの原因にもなります。事例を映像をまじえて紹介します。	情報リテラシー	復習（60分） SNSトラブル
11回	消費者行政のしくみ①～消費者問題などで困ったときの対処方法～ 消費生活センターなど困ったときに何をしてくれるのか資料を基に解説します。	問題解決能力	復習（60分） 消費生活センター業務
12回	消費者行政のしくみ② ～情報提供の実際と事例調査～ 消費生活センターは商品テストの結果や問題商法の手口など様々な情報を発信しています。自分の居住地の消費者センターの発信している情報を調査します。	問題解決能力、情報リテラシー	復習（60分） 商品テスト
13回	環境問題と私たちの暮らし① 地球環境問題と生活とのかかわりについて理解し、環境に配慮した暮らし方の工夫を考えます。	問題解決能力	復習（60分） 省エネ家電
14回	環境問題と私たちの暮らし② 聖徳大学の環境への取り組みについて関心を持つ。 SDG s（持続可能な開発目標）について理解する。	問題解決能力	復習（60分） 調査レポート
15回	まとめ 自分の生活を振り返り、課題を見つけ、よりよい生活実践に向けての改善策を考えます。	問題解決能力	復習（60分） 学習内容全般
試験	授業内に試験実施予定 評価の要点に基づいて実施します。		